

小学校・第5学年・体育科（保健領域）・けがの防止①

育成を目指す資質・能力

(1)知識及び技能

交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であること。

(2)思考力、判断力、表現力等

けがを防止するために、危険の予測や回避の方法を考え、それらを表現すること。

(3)学びに向かう力、人間性等

交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止、及びけがの手当てについての学習に積極的に取り組もうとすること。

ICT活用のポイント

・ICT端末に、各自が危険だと思った場所を撮影・入力し、自分が考えた改善策を示すことで個別最適な学びにつなげる。

・各自が見付けた危険箇所やその対策について、学習支援ソフトを活用し意見交換したり、新たな改善策を話し合ったりすることで協働的な学びを実現する。

事例の概要

学習課題の設定



課題の発見



課題の解決・表現



学習の振り返り

本事例は、学校生活における事故を防止することを学習課題とする。

学校内の事故の現状を知った上で、学校内の危険な箇所の点検などを通して、自分が危険だと思うところを撮影し、危険を回避するための対策を考える。

課題を解決する過程では、各自が自分の判断で危険箇所を撮影し対策を考え、その内容を友達や教師に伝えたり、友達が撮影したものと比較したり、さらに新たな対策を考えたりするなどして思考を深めることができる。

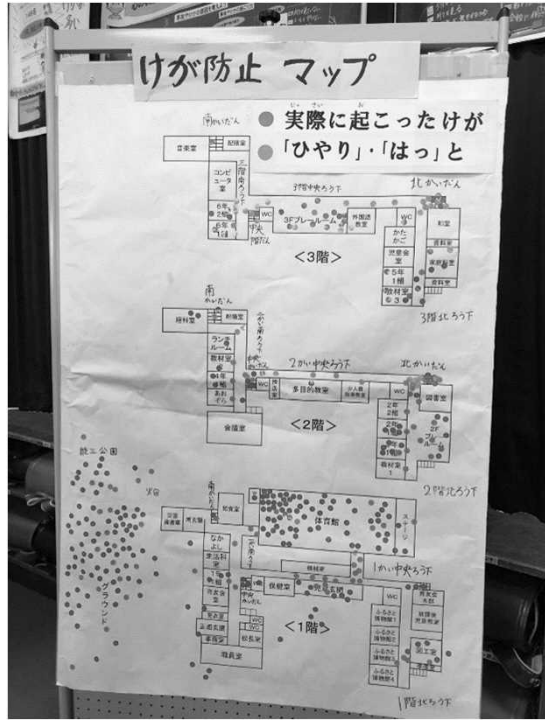
学習の振り返りでは、学級で共有しているデータに、各自が見付けた危険な箇所や必要な対策、友達のよい考えなどを入力する。さらに、友達が記入した内容を確認することで、自己の学習を振り返るとともに、次の時間のめあてにつなげたりする。

教師は、児童の活動の状況や思考の流れをデータで把握することで、本時の指導を振り返るとともに、次時以降の授業改善に生かす。

小学校・第5学年・体育科（保健領域）・けがの防止②

～一人一台活用により「深い学び」につなげる～

各自の視点で、
危険箇所を撮影



各自が対策を立案

グループで交流



【活用したソフトや機能】 ファイル共有機能

【事例におけるICT活用のポイント①】

- ・これまでは教師が用意した危険個所の写真を基に、クラス全員やグループで課題発見や課題解決の方策を話し合った。
- ・各自が危険個所を撮影し、「けが防止マップ」を作成したことで、子供たちは自分事として捉えられるようになり、意欲的に学習活動に参加するようになった。

【事例におけるICT活用のポイント②】

- ・課題を解決する過程で、友達が考えた対策を共有し、自分の考えと比較したり、それをヒントにして異なる対策に気付いたりする。
- ・さらにより効果的な対策はないか話し合うことにより思考を深めることができる。

【教師にとってのICT活用のメリット】

- ・短時間で効率的に、全時間の児童の活動や思考の流れを把握することができる。
- ・個々の児童の学習状況を客観的・継続的に把握することができる。
- ・学校全体でデータを共有することで、今後、同じ単元の学習を指導する際の参考資料の一つとして活用することができる。

協働的な学びを通して、より深い学びにつなげることができる